ともにつくろう、先端のまち「館林」について

向井　誠　議員

質問 須藤新市長の5分野にわたる政策目標についてお尋ねします。まず、国土強靭化館林地域計画の内容は。

答 国では全国の市町村で本計画の策定を呼びかけており、国土・経済等が災害等で致命的な被害を負わない強さと、速やかに回復するしなやかさを持つとともに、想定外がないように、全庁的にあらゆる分野のリスクを抽出し、その脆弱性を評価するものです。これにより危機管理、危機対応力が高まるものと思います。

質問 群馬県指定認知症疾患医療センターの内容は。

答 認知症疾患医療センターとは、認知症の鑑別診断や身体合併症、専門医療相談等を実施しながら、地域の保健・医療・介護機関との連携を図るなど、地域での認知症医療提供体制の拠点施設です。今後、認知症の方や家族が住み慣れた地域で生活できるよう、館林地域への設置について、国や県に要望してまいります。

質問 東京大学異才発掘プロジェクト「ROCKET」との連携事業の内容は。

答 このプロジェクトの目的は、異才はあるものの、周囲の環境になじめない小中学生を対象に、その異才を発掘・開花させようとするもので、居場所をつくり、そこで自分らしさを発揮し、結果としてユニークな人材が育つことを期待しています。また、発達障がい者の特性に対し、社会全体で理解が進むことも期待しています。

質問 コミュニティスクールのモデル校導入の趣旨は。

答 地域に適した特色ある学校づくりを目指すもので、具体的には、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、保護者や地域住民等で構成される学校運営協議会を設け、意見を述べるといった取組を行うものであり、今後は、総合教育会議の場などで投げかけたいと考えております。

質問 最後に、板倉町との合併の考えをお尋ねします。

答 故安樂岡市長のご遺志を継承し、推進する立場で臨み、住民の皆様へも経過を報告し、様々な場面でご意見を伺ってまいります。

つつじが岡パークインの平成30年度からの運営について

渋谷理津子　議員

質問 つつじが岡パークインが利用停止に至る経緯と手続はどう進めたのですか。

答 ㈱パークイン栄様から指定管理契約期間を終了した時点で継続しないとの申し入れがあり、施設改修や指定管理の継続を含め、検討する時間が必要と考え、本年4月1日から停止することになりました。

質問 契約期間満了前に公募をすれば、間断なく運営できたかと思いますが、施設の修繕に対する年次計画等は検討しなかったのですか。

答 大規模な修繕をある程度計画しないと、指定管理の協議に入れないと考え、検討期間を設けたものですが、施設の修繕は、もう少し早く計画的に更新すべきだったと思っております。

質問 利用停止により観光客・スポーツ団体・福祉施設等の利用者から多くの苦情が寄せられていますが、市民や地域経済への影響をどう捉えていますか。

答 観光客等が市内で消費する飲食や土産品など、地域経済にも影響があると思っております。日帰り入浴やレストランの利用などは、地域の皆様へのサービス低下につながっていると考えております。

質問 城沼白鳥を守る会からパークインの存続を求める陳情書が提出されましたが、その後、どのように検討されてきましたか。

答 陳情書は、本年2月20日に受領いたしましたが、まだ具体的に方向性を示せる段階ではなく、いろいろな手法を検討している最中です。

要望 陳情書には1240名の方が署名しており、誠実に対応していただきたい。

質問 何年もかけて検討していると施設は荒れ、潰れたとうわさされ、見放されてしまいます。利用再開に向けて、今後どのような取組を行っていくのですか。

答 早急に有識者や市民の代表等による検討委員会を組織し、平成30年度からの運営に向け、どういう手法が望ましいかなど、できる限りのスピードアップを図り、検討してまいりたいと考えております。